

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 7月29日(月)

会場: 十日市コミュニティセンター

参加者数: 62人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>観光資源と人的資源について提案したい。十日市には三次町に劣らず観光資源がある。岡竹、花園の丘陵地帯一帯の名所と史跡。若宮八幡神社の桜や紅葉、三次市や浅野氏の文化財、県指定の若宮公園、国指定の花園古墳、県史跡の日光寺の古代住居跡、広島県無形文化財の三次人形。これらの観光資源を活用することを提案する。酒屋地区の周遊ルートとして、第一に、三次駅から徒歩や自転車で南北自由通路を通して観光地をめぐる。第二に自家用車や観光バスで観光する。そのためには、観光地の点を線として位置付けることが必要である。そのためには、第一に道路や駐車場の整備が必要。第二に古代住居の復元と目立つ標識、看板の設置。第三に、三次人形の後継者確保のための経済的援助。後継者が安心して製作できるような財政的支援を強めてほしい。</p> <p>続いて人材確保の問題。十日市では、高齢化のため、まちづくりの人材確保が困難になっている。常会長、区長、自治連役員、各種団体の役員、委員を引き受けてくれる方が見つかりにくくなっている。その中でも大きな問題は、民生児童委員。3年が任期で、この12月に改選となるため、新しい委員を7月中旬までに選ばなければならなかった。現在、決まってない地区がいくつかある。行政として委員の後任選びは委員に任せていた傾向がある。三次市のある地域では、支所が積極的に協力しているところもあると聞いている。お願いしたいのは、行政として、第一に、地元にもっと協力してほしい。第二に、県や市や学校を退職した人がもっと積極的にまちづくりに協力してほしい。第三に、民生児童委員制度の見直し。地域割の人数や活動内容など。人材確保のため、行政として地域に積極的に協力し、解決のための一案をお願いしたい。</p>	<p>・十日市地区にある様々な観光資源を活用して地域づくりにつなげていくという提案をいただいた。三次地区への周遊ルートをしっかり作っていく中で、もちろん十日市もルートに含まれている。点で存在している十日市地区の宝を線で、面で、一つの観光資源として作り上げ、十日市地区の方と一緒に外に発信できることは市としてPRしていきたいと思う。古代住居跡の看板設置について、観光パンフレットなどの掲載状況などをみながら、今後、協議をしていく。</p> <p>・現在、十日市小中学校では、総合的学習の時間や地域を学習する時間の中で、三次人形の窯元の方に来ていただいて説明を聞くという学習も行っている。子どもたちが地域の学習をする意義は、将来、この誇れる三次に帰ってきて、住もうと考えてくれる子どもたちが1人でも大きく成長してほしいという思いで、どの学校もこの取組を行っている。三次人形も含めて、これからも地域の学習を各学校で特色ある学校づくりの一つとして行っていく。</p> <p>・昨年に引き続き、地域人材育成派遣事業を行っている。それぞれの地域の特色や課題を明らかにし、今後のまちづくりについて、専門家を派遣し、一緒に取り組んでいる事業。地域の強み、弱みの話や先進的な地域の取組の情報共有をする中で、担い手の確保等を図っている。なかなか特効薬はないが、協働のまちづくりの中で、若者の地域への参画について一緒に考えていきたい。</p> <p>・民生委員の改選については、自治連合会には大変お世話になっている。どの地域も、なかなか手が足りないのが現状である。行政も最大限の連携をしていきたい。退職者等へも重点的にあたっているが、仕事をされたいたりしてなかなか難しい。民生委員の任務の整理や条件整理は今後、大きな課題となってくるので、一緒になって協力させていただきたい。今回の改選については、一緒になって、人材確保にご協力をお願いしたい。</p> <p>・若宮公園の中の公衆トイレを整備する。トイレの問題も、若宮公園になかなか人が来てもらえなかった大きな要因の一つだったと思う。桜も以前より木が傷んできている。それらを整備する中で、ルートや駐車台数の研究をしながら、相談させていただきながら進めていきたい。</p>	

## 令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 7月29日(月)

会場: 十日市コミュニティセンター

参加者数: 62人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>・人的資源の問題は十日市だけでなく、三次全体の問題である。現有する資源として、高齢者も含めて、三次市には様々な人材がいるが、その人材を行政が上手く活用できていない。個人情報の問題で動きが取れないのであれば、市から、ある分野に関して手をあげてもらえるような形で人材を集めてみてはどうか。市から呼びかける形で、行政がもう一步踏み込んでやってもらいたい。</p> <p>・周遊の問題について、サイクリングロードの整備を提案したが、まだされてない。環境としてはあるが、なぜ活用しないのか。今はサイクリングブームである。三次は、インターチェンジや観光資源のつながりが悪いので、サイクリングロードの整備の仕方でき動きが出てくるのではないか。</p>	<p>・人的資源等について、市の施策を検討する際に、公募の委員を募集しているが、限られた分野だけでなく専門的な知識を持つ方もいらっしゃるのので、そういう方をしっかりと活用してはどうかというご意見をいただいた。参考にさせていただいて、検討していく。</p> <p>・国でも自転車の通行について、いろいろと研究され、様々な企画がされている。今後、市でも研究していく。</p>	
<p>・中央病院の駐車位置を示す看板があるが、車が停まると看板が全く見えないので、高くしてほしい。</p> <p>・庁舎へはフリーwi-fiが整備されているのか。</p>	<p>・確認して、見えにくいようであれば改善していく。</p> <p>・市が設置している無料のwi-fiは、市内6カ所に設置している。市役所東館1階ロビー、三次中央病院、福祉保健センター1階、ゆめランド布野、みよしまちづくりセンター1階、奥田元宋・小由女美術館に設置している。その他、観光の施設にHIROSHIMAFreeWi-Fiを、三次市交通観光センター、君田温泉森の泉、江の川カヌー公園さくぎ、広島三次ワイナリーの4カ所と、4月から、もののけミュージアムの観光まちづくり交流館に設置している。</p>	
<p>三次中央病院の庭について、中庭が全く手入れされていない。木が枯れ、草がすごく茂っている。きれいにしていきたい。</p>	<p>草については、年間数回草刈りをしているが、この時期、草の伸びが早いのが現状である。できる限り草刈りをやっていく。</p> <p>樹木については、専門の方に見てもらい、枯れていると判断されたものは昨年、伐採した。中庭については整理をさせてもらいたい。</p>	
<p>利用者へのサービスという観点に立って、コミュニティセンターへのフリーwi-fiの整備を検討し、取り組んでいただきたい。</p>	<p>コミュニティセンターへのwi-fi整備については、今後についての具体的な計画はないが、課題として認識させてもらう。</p>	

## 令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 7月29日(月)

会場: 十日市コミュニティセンター

参加者数: 62人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>・若い人がコミュニティセンターに集えるような、若い人のニーズに応えるように、wi-fi整備を十日市コミュニティセンターだけでなく、全体に広げていただきたい。</p> <p>・水害の問題について、国土交通省のホームページ、市の防災マップでは、十日市に関連する避難所は、水害時の問題点に関しては、全て△になっている。馬洗川、北溝川で水が出て、市街地に水が入った場合、十日市コミュニティセンターが主要な避難所になる。1階が浸かると全く機能しない状況にある。一番良いのは、水が出ても浸からないようにすることだが、再度、長期的に検討していただきたい。</p>	<p>・コミュニティセンターへのwi-fi整備については、今後についての具体的な計画はないが、課題として認識させてもらう。</p> <p>・国土交通省のホームページ、市が配布した防災マップでも、浸水区域と記載されている。もし、堤防を越える水位になると、十日市、南畑敷一帯は、水深の違いはあるが、水没をするということになっている。三次は昔から河川の災害に度々遭ってきた。解決は難しいが、市が第一に住民の皆さんにお願いしたいのが、命を守っていただくこと。浸水時緊急退避施設として12カ所指定している。まずは、市からの避難勧告や避難指示の情報を入手していただいて、早めに避難をしていただきたい。十日市地区は現時点では、そのような対応をせざるを得ない状況。今後、より良い方法を考えていく。</p>	
<p>十日市コミュニティセンターへは、コミュニティセンターの入り口付近にある中国電力の受電盤から電気がきている。その受電盤が浸水すると、コミュニティセンターが停電する。2階、3階へは電気で水を上げているため、水がいかず、トイレも使えなくなる。避難所として指定してあっても使えなくなる。47水害以前は、三次駅から山側はほとんど田であった。今は住宅ばかりになり、水面が上がってきている。十日市では、2階に垂直避難できるところが、ある程度限られるのではないか。確認していただきたい。</p>	<p>避難所として成立するには、電源、上下水道が大事なインフラである。電源の問題だけでなく、あらゆる視点から確認していきたい。</p>	
<p>災害時の避難場所について、旧林業試験場の敷地内を避難所として活用できないか。</p>	<p>昨年、事務所の建物が避難所として使えないか、広島県と協議したが、建物の耐震性が不十分のため、避難所としては難しい。場所はいいので、良い活用方法がないか検討している。</p>	
<p>・今は使われていないが、災害用に井戸が活用できる場所がまだあると思う。現有する資源である井戸の活用を検討してもらいたい。</p> <p>・地域資源を活かした産業づくりについて、世代間の連携をしないと継続できない。熱意のある人が一時的にやっても続かない。世代間の連携をとる組織づくりをしながら地域産業問題に取り組んでもらいたい。</p>	<p>・活用できる現有資源は合理的な見地から活用していくことはいいと思うが、個別に検討していく必要がある。</p> <p>・産業に限らず、いろいろな場面で、次の代につなげていく、後継者を育成していくという視点で、いろいろな事業に取り組む必要がある。そういった視点を踏まえて、事業等を考えていきたいと思う。</p>	

## 令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 7月29日(月)

会場: 十日市コミュニティセンター

参加者数: 62人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>グランラッセ三次について、300人規模の宴会ができるコンベンション機能が備わっている場所はグランラッセしかない。無くなって良いのか。色々な所に掛け合っているが、一企業の問題だという話になり、先に進まない。建物自体まだ使えると思う。市内の企業が使うしかない。</p>	<p>三次市として課題と認識している。無くなることは市として痛手であると理解している。民間企業にアプローチする中で、機能の存続をできないか話している。金額の折り合いなどは交渉中である。これからできる限りの努力はさせてもらいたい。今後、民間レベルでの決着になるのか、行政を交えた決着になるかわからないが、慎重に判断し、一日でも早い解決をめざす。無くなって良いはずはないという共通の認識でいる。</p>	
<p>民生委員の改選について、なかなか成り手がいない。市からの協力をお願いしたい。</p>		
<p>健康寿命について、どれだけの寝たきり老人がいて、保険料がどれだけかかっているのか。少なくするために、病気にならないためにお金をかけてほしい。</p>	<p>長野県の例では、昔は平均寿命が短かったが、食生活を改善して健康寿命を延伸させたという例がある。三次市では、予防事業を健康推進課を中心に健康づくりの事業をしている。十日市は、ウォーキング事業にも地域で取り組んでいただいているが、認知症予防事業を平成28年から3年間実施し、一定の成果が表れている。引き続き、十日市を中心に今後も取り組んでいく。福祉保健センターのトレーニングジムについても、活用しづらいという意見があるので検討していく。健康づくりは地域づくりの大きな柱として取り組んでいきたいと思うので、今後も協力をお願いしたい。個人の意識の問題もあるので、啓発もしていきたい。</p>	